



安全・安心で住みよい地域づくりに取り組んでいる
校区コミュニティ協議会や自治会などの活動を紹介。

若者をもっと頼って

コミュニティ連絡協議会がシンポジウム

「もっと若者を頼って受け入れてほしい」。大阪国際大学4回生の根岸昂生(こうき)さんの発言に参加者が真剣に耳を傾けています。枚方市コミュニティ連絡協議会が3月17日、「これからの若い世代に期待する地域活動」をテーマに大阪歯科大学楠葉学舎講堂でシンポジウムを開催し、地域活動に携わる市民や学生など約350人が参加しました。市内45小学校区にある校区コミュニティ協議会間の連絡調整などを目的に活動する同連絡協議会では、地域が直面するさまざまな課題に対応するため平成21年度からシンポジウムを開催。今回は(財)地域自治総合センター「青少年健全育成助成事業」の助成金を活用して実施しました。

パネルディスカッションには、基調講演を行った近畿大学総合社会学部の久隆浩教授をコーディネーターに、同連絡協議会会長、枚方市長、ひらかた市民活動支援センター理事長、大学生2人が参加。市内在住で京都府立大学3回生の藤田翔平さんが、地域活動への参加につい



て「一度入ると抜け出せなくなりそう。もっと自由な雰囲気欲しい」と指摘すると、根岸さんからも「任せてもらえればもっと主体的に動ける。『学生だから』なんて言わないで」と本音混じりの意見が飛び出すなど活発な意見交換に。久教授は「今の若い人は組織や会社に縛られない。ツイッターなどの情報ツールを使って臨機応変に人とつながり、興味のあることに対して積極的に動く」とこれまでの研究や経験に基づく話を紹介。「やる気のある若者が自発的に動けるよう、地域は人の受け入れ方を見直してみても」と話しました。同連絡協議会会長の小原寿三さん(69歳)は「これからは世代を超えた活動が地域でもっと活発になるよう努めたい」と意欲をにじませました。